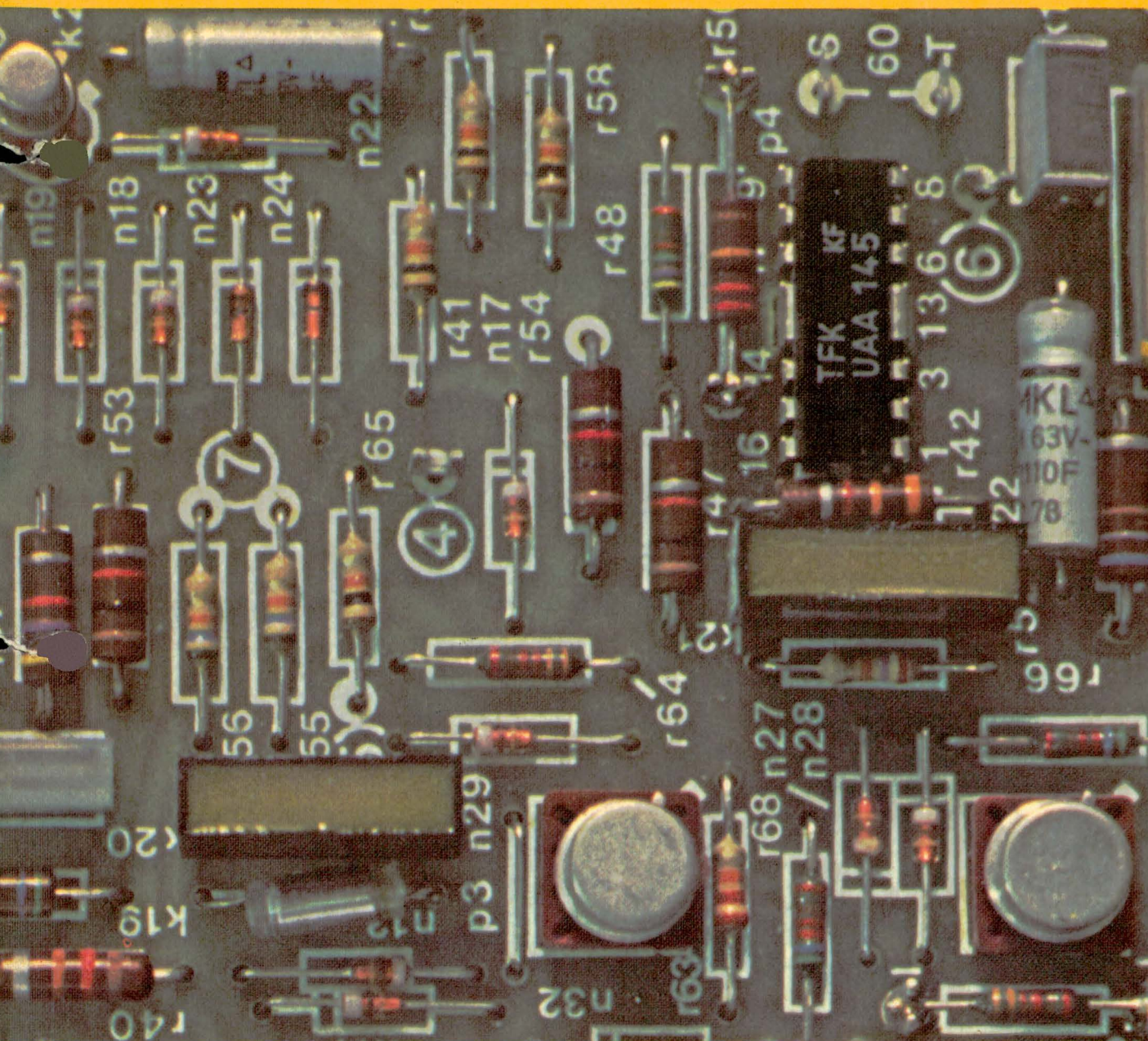


STRICTLY MEMBERS ONLY
M.C. (P) No. 41/1/80

1980: 7月號

月報



シンガポール日本商工會議所

＜目 次＞

(1980年7月号)

新会頭所感	1
前会頭挨拶	3
中島大使ご挨拶	5
Message From Mr. Lim Kee Ming	7
✓1980年度総会議事内容	10
✓1979年度事業報告	13
✓1980年度収支予算案	37
理事会の動き	38
1980年度正副会頭並びに各担当理事	41
部会活動	43
7月の主な経済記事	45
広報欄	47
資料案内	49



新 会 頭 所 感

シンガポール日本商工会議所
会頭 太田 晴之
(三井物産)

このたび、はからずもシンガポール日本商工会議所会頭に選ばれて、まことに光栄に思いますとともに、その責務の重大さを痛感いたしております。今後全力を尽して重責を全うすべく努力する所存でありますので、何卒会員各位のご指導ご鞭達をお願い申し上げます。

さて、昨年度の当会議所の活動は、島崎前会頭を中心として会員各位のご活躍により飛躍的な前進を遂げ大きな成果を収めました。内部的には創立10周年記念事業をはじめとする諸種の事業活動を通じて会員相互間の緊密化を図る一方、対外的にもシンガポール政府及び当地経済界との交流、相互理解の拡大に努める等当会議所に対する内外からの理解と関心を深めることができました。こうした努力はシンガポール内外各方面から非常に高く評価されているところであり心からの賛辞を呈したいと存じます。

ご承知の通り、昨年から開始されました「第二次産業革命」といわれる当国産業構造の改革は、大巾な賃金上昇のもとで、技術の高度化を求め、労働生産性の向上を目指して、本年はその第2年目を迎えました。会員各位は、この新事態に対応して、多様化する種々の困難を解決すべく、日夜努力を重ねられておられることと存じます。

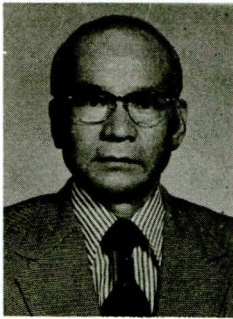
幸い、日星関係は官民要路の方々のご理解により、年々友好関係を維持し、投資、貿易面でも年々目ざましい拡大を続け、今後益々相互依存関係が強まるものと予想されます。時まさに1980年代を迎え、目まぐるしく変動する世界情勢を背景に、日星両国の発展と両国関係の緊密化を図るためには相互理解の進展と交流拡大がなお一層必要であると確信いたします。

こうした意味におきましても、当会議所の果す役割が益々高まっている今日、これまでの商工会議所活動を踏まえながらたゆみのない躍進を期する契

機といたしたいと念願いたしております。

つきましては、会員諸氏が本所活動に積極的にご参加賜わり、対内的には会員相互間の緊密化、対外的には当地諸機関、当地社会との交流強化が推進されることを切望いたします。

会員各位の一層のご支援、ご協力を賜わりますよう重ねてお願い申し上げます。



前 会 頭 挨 拶

シンガポール日本商工会議所
前会頭 島 崎 弘
(新日本製鉄)

1980年度シンガポール日本商工会議所総会が開催されるに当り一言ご挨拶申し上げます。本年はとくに中島大使閣下のご臨席を得、また中華総商会リム・ケー・ミン会長をご来賓としてお迎えできますことは私共にとつて大きな喜びであり、大変光栄に存ずる次第であります。

さて、昨年(1979年)を顧みますと、我々にとつて最大の課題はNWC勧告でありました。これはシンガポール政府の経済政策の転換、即ち労働集約から機械化、自動化、高付加価値化への転換を反映して、約20%に及ぶ大幅な賃金アップを伴うものであり、その対応をめぐつて会議所内部でも議論が百出したことは記憶に新しいところであります。つぎに、特記すべきことはわが商工会議所の創立10周年記念事業の実施でありました。昨年12月18日の記念式典には、ゴー・チョク・トン通産大臣、菊地大使、永野日商會頭はじめニヤン・トウ・ドウEDB長官、ウイ・チョウ・ヤウSFCCI会長、リム・ケー・ミー中華総商會會長ら当地政府、経済界の指導者と共に本所會員約320名が一堂に会し盛大に記念式典が挙行されました。

こうした出来事は、1979年がシンガポールにとつてもわが商工会議所にとつても一つの転換期であることを象徴すると同時に、次の新しい段階への移行を示唆しているとも言えましょう。

いま、1977年以来3年間にわたる会頭在任期中の会議所活動を回顧いたしますと、先ず1977年には福田総理のご来星を契機として日本とASEAN諸国との新しい関係緊密化が始まったことは特筆すべきことといえましょう。日本企業としてはシンガポール・サイエンス・センターへの寄付(現物給付を含む約3億円)を行つております。翌1978年には、NWC勧告に対して本所としての意見具申を初めて行ふほか、ジュロン・シツプヤード爆発事故発生時にはいち早く「産業災害救助基金」に寄付(約1,600万円)、

加えて当地文化興隆のためシンガポール文化基金に対しても数度にわたり寄付を行っております。

この間、来星された官民要路は、福田総理、河本通産相、牛場対外経済相、金子蔵相、佐々木通産相、永野日商会頭など多数にのぼります。また、本所会員も240社から340社へと拡大、在留邦人も約7千人から約1万3千人へと急増しております。

こうして1977年以来の会議所活動を顧りみましても、その展開の著しさに感無量の思いがいたします。とくに、福田ドクトリンにもとづく日本・ASEAN 諸国の関係強化、とりわけ日星関係の緊密化はこの間に正に歴史的な展開を示したと言えます。

かくして、1980年を迎えた今日、日星最大のプロジェクトであるPETROCHEMICAL CORPORATION の起工式を間近に控えているほか、日星友好の表われとしてJAPAN-SINGAPORE TRAINING CENTRE が昨年11月に開校し、更に国立大学の日本語学科もスタートする運びとなっております。愈々日星関係の緊密化が具体的に進展すると同時に、新たな段階を迎えていると存じます。

不安定な世界の政治経済情勢の下で、内外ともに厳しい局面を打開し、80年代の新しい展望を切り開いていくためにわが商工会議所全体の英知を結集することが今後最も緊要なことであると存じます。そうした意味でも本日の総会で選任される新会頭はじめ役員諸氏が会議所活動の一層の前進のために活躍されることを期待してやみません。

なお、ここで特に海外駐在員として極めて榮譽ある通商産業省の「経済協力貢献者表彰」を授賞せられ、わが会議所の名誉会員である桜井清彦氏及び中山一三氏のこれまでの私共に寄せられたご指導に厚く感謝申し上げ、併せて両氏の今後益々ご健勝にてご活躍されますよう祈念致したく存じます。また、この3年間わが商工会議所事務局長として尽力された徳山健二君に深く感謝の意を表したいと存じます。

以上をもつて私の御挨拶といたします。



中島大使ご挨拶

在シンガポール日本国大使館
特命全権大使 中島 敏次郎

一言御あいさつ申し上げます。

このたび新会頭に就任されました太田さんを初め、理事の皆様、御就任おめでとうございます。

また過去三期にわたり会頭として御活躍された島崎さんあるいは理事の役目を十二分に果たされ今回交代されました皆様御苦勞様でした。

近年、日本とシンガポールの関係が極めて友好的であるとは言え何かと処理の難しい問題も少くなかつたのではないかと思います。日系企業をめぐって各種の問題が生じるたび迅速かつ適切に解決に努められ、更には日星友好関係促進のため皆さんが多大の貢献をされたことは衆目が一致して認めるところではないかと考えます。皆さんの御努力によりシンガポール日本商工会議所が日本人のみならずシンガポールの人々にも評価され祝福されて創立10周年を迎えられたことはまだ記憶に新しいところでありますが、次の10年も当商工会議所が一層の御活躍と御発展を遂げられる様念願する次第であります。

独立以来シンガポールは3つのCを克服するのに成功したとよく言われております。3つのCとは COLONIALISM, COMMUNISM, COMMUNALISM のことですが、いずれにせよリー首相以下シンガポールの指導者が卓越した指導力の下に身を挺してそれを克服し、今日の繁栄を築いたことは賞賛に値するというのがその結論であります。政治・社会面で3つのCを克服したシンガポールは、今や経済面で大きな転換期を迎えております。

このため昨年からは経済構造改善を目指す意欲的な政策が実施され、低賃金に依存する産業から脱却し、より高い技術を必要とする産業へ移行しようとしております。更にはコンピュータ・ソフトウェア産業、医療サービス産業、

等いわゆる TERTIARY INDUSTRY の確立を長期的目標として掲げておりますが、こうした政策は当地の日系企業にも多大の影響を与えるのではないかとされます。言葉を変えて申し上げれば当地の日系企業も大きな曲り角に立たされているわけで、それだけ当商工会議所に対する期待も高まつており、活躍される分野も広がっているのではないかと考えます。即ち、日系企業をめぐつて時として発生する問題の解決に努めるといつた従来型の仕事に加え、日系企業の利益を代表し、シンガポール政府関係者等と間断なき対話を行い、日系企業の意見を政策に反映させる等のより長期的かつ広い視野からの活動が今後一層重要になるのではないかと思います。

現在当地で活動している日系企業は約1000社に上り、在留邦人数は1万4千人を超えたのではないかと推定されております。国土600平方キロメートル、人口230万人に過ぎないシンガポールではそのプレゼンスは大変大きいと申してよろしいかと思います。幸いにも現在に至る迄シンガポール経済が誠に順調に発展してきたため、日系企業の活動そのものに対する非難は余り見られず、最近ではアジア唯一の経済大国、日本の成功の歴史及び経験を広く学ぼうとする動きが高まつております。しかし、シンガポールも世界経済という大海に浮かぶ小さな国である以上、将来どんな経済的困難に遭遇しないとも限りません、そうした場合、日系企業のプレゼンスが余りにも大きいと由に摩擦が生じないとも限りません。こうした不幸な事態を回避するには、平素から地元経済界との交流を重ね、互いに協力してシンガポール経済を支えて行くという意識と姿勢を確立しておくことが必要であり、その推進役を担い得るのは、商工会議所においては他にないと信じます。

80年代という新しい時代を迎え、当商工会議所の運営も決して容易ではないと思います。

新しく選ばれました理事の皆様共々、日星友好関係を更に強固なものとするためより一層の御尽力をたまわります様お願いして私のあいさつと致します。

MESSAGE



Mr. Lim Kee Ming
President
Singapore Chinese Chamber of
Commerce and Industry

Your Excellency, Mr. T. Nakajima, Ambassador of Japan, Mr. H. Ohta, Honourable President of the Japanese Chamber of Commerce and Industry. Distinguished members of the Japanese Chamber of Commerce & Industry, Singapore.

It is indeed an honour to be invited to address members and friends of the Singapore Japanese Chamber of Commerce and Industry on this auspicious occasion of its 11th Annual General Meeting. I am told that this is the first time that your Chamber has invited a representative from the local private sector to address your meeting, and I consider it a privilege to be the first Singaporean to break the ice.

I am happy to note that since its establishment in 1969, the Singapore Japanese Chamber of Commerce and Industry has been expanding steadily. Within the short space of 11 years, it has strengthened its membership from a mere 69 to an impressive figure of nearly 400. This membership increase clearly reflects the strong interest of Japanese entrepreneurs in Singapore and the region, and the confidence that Japanese businessmen have in your Chamber. It also indicates the vital role the your Chamber has played, and will continue to play, in the further development of the Singapore economy.

Besides catering to the social needs of the Japanese community in Singapore, your Chamber has also made significant contributions to the local community. Among other things, the Japanese Chamber has helped to set up the beautiful Japanese Garden in Jurong, made generous donations to the Red Cross, the Singapore Science Centre and the Singapore Cultural Fund as well as offer educational expertise to the Vocational and Industrial Training Board and the Institute of South East Asian Studies. Such invaluable contributions, given freely and voluntarily, are firm testimony of the Japanese Chamber's commitment to the betterment of the local society. In short, all these show that your Chamber cares for Singapore and its people.

Trade between Japan and Singapore has been growing at a brisk pace in recent years. Last year, Singapore's two-way trade with Japan rose by 20% to reach \$9.5 billion, comprising 14% of our total trade. Imports increased by 15% to \$6.5 billion, a lower rate of increase compared with 27% in 1978. However, Japan is still Singapore's leading supplier, providing 17% of our total imports. In 1979, Japan ranked fourth in importance as a market for Singapore's exports.

I have no doubt that the Japanese Chamber will continue to play an active and meaningful role in promoting two-way trade between Japan and Singapore. In this respect, the Japanese Chamber has my assurance that the Singapore Chinese Chamber of Commerce and Industry will give its fullest cooperation and support for improving bilateral trade. I personally believe that our two Chambers already have good relations and, with continuing goodwill and exchanges of views between our members I am sure there is plenty of scope for further cooperation.

As you all know, the Singapore Government has pursued a very open policy with regards to investments from abroad. Foreign investors are welcomed for two reasons — their capital and technology and the market they provide in their home country. Japan has also played a leading role in this respect. Up to 1979, Japan's cumulative investments in Singapore reached \$801 million, making it the third largest foreign investing country after the US and the Netherlands. My personal feeling is that Japan could well take second place in the near future, if not number one position eventually.

Since last year, Singapore has embarked on a new and bold restructuring strategy, with emphasis on higher technology industries. It is obvious that in our efforts to introduce greater automation and computerisation in our manufacturing sector, and the up-grading of skills not only in our workers and also management, there is much we can learn from Japan. In fact, Japan can contribute immensely to Singapore's economic development by pumping investments in the capital intensive industries such as precision engineering, computers, petrochemicals and high-technology electronics.

In this area too, there is much room for cooperation between our two Chambers. I have always maintained that joint ventures between Singapore entrepreneurs and overseas manufacturers are one of the most effective ways of bilateral economic cooperation. Since Singapore businessmen generally lack the technological knowhow and expertise although many have the necessary capital and knowledge of local conditions, while Japanese investors have the technical experience but lack full understanding of local sensitivities, it would be ideal for the two parties to come together.

The Japanese Chamber can assist in this process by providing prospective investors from Japan with useful information and explanations of local conditions in Singapore. Inquiries pertaining to joint ventures and other business matters could also be referred to the Chinese Chamber, which would gladly "match-make" Japanese investors with the appropriate local entrepreneurs. In this way, our two Chambers will be making positive contributions towards the restructuring of the Singapore economy.

In a distinguished gathering such as this, I do not think it is necessary for me to stress the close relations that currently exist between our two countries. I do feel it necessary however, to point out that good relations between the peoples of two countries can only be successfully maintained if both sides feel that they are mutually benefitting from the relationship. In other words, once the people of one country is convinced that they are being unfairly treated by the other side, this relationship could quickly turn sour.

As I mentioned earlier on, so far relations between Japanese and Singapore businessmen have been favourable. It is all the more important, therefore, that we exert ourselves to ensure that this amicable relationship is maintained in the future year. As the leading organisation of the Japanese community in Singapore, it is clear that the Japanese Chamber of Commerce and Industry must play a crucial role in this respect. From my personal contacts with the officers and members of your Chamber, I am confident that your Chamber will fulfill its role more than adequately.

It only remains for me to wish the Singapore Japanese Chamber of Commerce and Industry every success in its future endeavours.

Thank you.

1980年度総会議事録内容

日 時： 1980年6月27日(金) 午後6時30分
場 所： シヤングリラ・ホテル(イエロー・オーキッド・ルーム)
出席者数： 72名、委任状148名、計220名

議事経過

1. 総会成立の報告

事務局長より現在の出席者64名、委任状による出席者148名、計212名であり、現在の会員数348名の過半数を超えているので定款21条により、本総会は有効に成立する旨の報告があつた。(本人の出席はその後8名増え計72名が出席。)

2. 議 長 選 任

定款23条にもとづき1979年度会頭島崎弘氏が議長となる。

3. 開 会 宣 言

島崎議長より1980年度総会の開会宣言があつた。

4. 議 事

(1) 会頭あいさつ

島崎会頭より、昨年度及び1977年、1978年度における会議所活動の回顧と、これからの展望についての所感が述べられた。

(2) 1979年度事業報告

倉重総務担当理事から①1979年シンガポール経済概況、②日星経済関係の推移、③1979年度本所事業活動概要について説明があつた後、一同に諮つたところ異議なく承認された。

(3) 1979年度会計報告

平井財務担当理事から1979年度会計報告があり、引続き太田会計監事より本所会計が適正かつ正確に処理されている旨の発言があつた。

ことあと一同に諮つたところ異議なく承認された。

(4) 1980年度予算案

平井財務担当理事から1980年度予算案について説明があつたあと、一同に諮つたところ異議なく承認された。

(5) Auditor 及び Auditor Fee

平井財務担当理事から Teo Eng Tien & Co.を引続き任命し、Auditor Fee をS\$600 からS\$700 としたい旨発言があり、これを諮つたところ異議なく承認された。

(6) 理事選挙結果

倉重選挙管理委員長より、1980年度理事立候補届出締切り（5月18日）時点で定款38条で定める理事定数23名と同数になり、無投票で全員当選となつた旨の報告があり、異議なく承認された。

(7) 正副会頭並びに推せん理事の選任

総会を暫時中断し、別室で先に選出された理事により臨時理事会を開催、正副会頭並びに推せん理事を選任、総会に諮つたところ全会一致で承認された。

会 頭 太田 晴之氏
GENERAL MANAGER
MITSUI & CO., LTD.

副会頭 長谷 清美氏
GENERAL MANAGER
MITSUBISHI CORPORATION

副会頭 水戸 清 氏
MANAGING DIRECTOR
HITACHI Zosen ROBIN DOCKYARD (PTE) LTD.

推せん理事は別紙の通り。

（なお、理事選挙管理規定13項により、理事選挙についての異議申し立ては、新理事成立後15日以内に文書をもつて選挙管理委員会に申し立てることになつてゐるが、同期間中に異議申し立てが無かつたので、別紙の通り理事が確定した。）

以上で総会の全議事を終了し、引続き太田新会頭のあいさつ、及び特にご臨席頂いた中島大使並びにリム・ケー・ミー中華総商会会長のご高話を拝聴した。そのあと、懇親パーティを行い盛会裡に閉会した。

1980年度シンガポール日本商工会議所 選挙による理事並びに推せん理事

1. 選挙による理事

NAME:	NAME OF COMPANY
Mr. H. Ohta	Mitsui & Co., Ltd.
Mr. K. Nagatani	Mitsubishi Corporation.
Mr. K. Mito	Hitachi Zosen Robin Dockyard (Pte) Ltd.
Mr. S. Shimizu	The Bank Of Tokyo, Ltd.
Mr. Y. Ohtsuka	Chiyoda Singapore (Pte) Ltd.
Mr. H. Fujii	C. Itoh & Co., Ltd.
Mr. M. Yamanouchi	The Dai-Ichi Kangyo Bank, Ltd.
Mr. S. Shichinoe	Hymold Pte. Ltd.
Mr. M. Miyake	Marubeni Corporation.
Mr. S. Okada	The Mitsubishi Bank, Ltd.
Mr. K. Hirai	The Mitsui Bank, Ltd.
Mr. T. Yasuda	Mitsui O. S. K. Lines, Ltd.
Mr. T. Kuroda	Matsushita Electronics (S) Pte. Ltd.
Mr. J. Oyama	Nissho-Iwai Co., Ltd.
Mr. H. Shimazaki	Nippon Steel Corporation.
Mr. K. Taneda	Nippon Yusen Kaisha, Ltd.
Mr. E. Morishima	Nippon Kokan Kabushiki Kaisha.
Mr. Y. Hayafune	Okamoto Singapore Pte. Ltd.
Mr. S. Koyama	Sumitomo Corporation
Mr. T. Kato	Sanyo Electronics (S) Pte. Ltd.
Mr. Y. Yumoto	The Sumitomo Bank, Ltd.
Mr. T. Goto	Tomy (S) Pte. Ltd.
Mr. M. Hayano	Yokogawa Electric (S) Pte. Ltd.

2. 推せん理事

NAME:	NAME OF COMPANY
Mr. M. Kurashige	Tokio Marine & Fire Insurance Co., Ltd.
Mr. T. Furuta	Kumagai-Gumi Co., Ltd.
Mr. M. Tanaka	Mitsukoshi Limited.
Mr. S. Hotta	Japan Air Lines Co., Ltd.

1979年度事業報告

1. 1979年シンガポール経済

(1)概況

1979年のシンガポール経済は、前年に引続き順調に拡大した。

1979年の国内総生産（GDP）は、市場表示価格で181億Sドルに達し、前年に比べ11.3%増となった。実質ベースでも9.3%増と1978年の実質成長率8.6%を上回った。これは世界的不況に陥った1974以降で最も高い成長率となり、この結果1人当たりGNPは、前年比8.8%増の6,515Sドルとなった。

こうした高い経済成長率は、製造業、運輸通信、商業の拡大を中心として達成された。この結果、失業率は3.3%と前年の3.6%より更に低下し、労働力需給は一段と逼迫した。一方、御売物価は、石油価格の上昇を主要因として前年比14.4%の急騰となった。しかし、消費者物価は1979年下期の住居費の上昇があつたものの、食料品価格が比較的安定していたことにより年間では4.0%高にとどまつた。

国際収支は、資本収支の大幅黒字により、11億3,700Sドルの黒字となり、外貨準備高も125億5622万Sドルと輸入の3.9月分となった。

なお、1979年央、政府は高付加価値産業育成、技術水準向上等の産業構造高度化政策を打ち出すとともに、32Sドル+7%という高率のNWCガイドライン勧告、CPF使用者拠出率4%引上げ、SDF（技能開発基金）創設を公表、実施にふみ切った。

(2)主要産業動向

- ① 製造業は、全産業の中で最も拡大し、前年比14.4%増となり、GDP増加寄与率も31%を占めた。とくに、電気機器、オイルリグ建造、修繕船、鉄鋼が好調であつた。
- ② 運輸通信業は、製造業とほぼ同率の前年比14.3%増の拡大となつ

た。これは、航空、通信、港湾の各部門が順調に増大したためであった。

③ 商業は、輸出の好調、観光客の順調な流入によるホテル、レストラン関係の拡大で前年比7.0%拡大したが、GDP実質成長率9.3を下回った。

④ 金融部門は、株式取引市場の低迷等で、対前年増加率8%にとどまった。しかし、高い経済成長率を反映して、融資が増大したほか、オフショア銀行など新規金融機関の設立が相次いだ。なお、アジアダラーは1979年末で、328億USドルに達した。

⑤ 建設業は、1977年、78年の低迷を脱し、1979年には前年比7.8%の拡大となった。これは、民間部門の建築の活発化、とくにホテル、ショッピング・事務所ビルの増設があつたためである。一方、公共部門は依然停滞している。

2. 日星経済関係

1979年の日星経済関係は、貿易投資面とも順調に増加し、両国経済交流が一段と拡大した。

まず、日星貿易は、輸出入額が95億Sドルとなり、対前年増加率20.5%増を記録した。しかし、この伸び率はシンガポール全貿易の伸び率32%増を下回り、貿易相手国として日本は前年の第1位から、マレーシア、米国に次ぐ第3位となった。これは対日輸出が前年比33%増と順調に増加したが対日輸入が15%増と増勢鈍化したためである。対日輸出の65%は石油製品で、このほか医薬品、繊維等であつたが、対日輸入は電気機械、自動車、一般機械等であつた。

一方、日本の対シンガポール投資残高は、1979年末で1049百万Sドルに達し、外国投資残高の16.8%を占めた。これは米国に次ぐ第2位となった。さらに、1979年の日系現地法人が100件以上が登録され、投資残高も一段と増加したもようである。

なお、現在当地における日本企業の現地法人、支店、駐在員事務所等総計で990件、在留邦人も13000人以上と言われている。

3. シンガポール日本商工会議所活動概要

1979年度は本所創立10周年の記念すべき年度にあたり、12月18日、永野日本商工会議所会頭、ゴー通産大臣、菊地大使ほか当地政府民間の指導者、本所会員ら約320名の出席を得て、盛大に創立10周年記念諸行事が実施された。

さらに対内的には、前年度を上回る部会開催、新規来星日本人を対象とした経営ガイドブックの発行準備、来星された金子大蔵大臣、佐々木通産大臣の歓迎パーティ開催ほか各種ミッション、要人の受入れなどを積極的に実施した。

また、定款変更により、理事2名増員となり、理事会機能を強化した一方、対外的には、NWCガイドラインへの本所会員の意見反映に努めるとともに、当地官民機関への本所理事派遣要請に応じて、理事4名を各々の機関に派遣するなど、当地関係機関との交流強化に努めた。このほか、VITBの APPRENTICE OF THE YEAR COMPETITION FOR 1980の技能優秀者1名の日本派遣に、本所が協力することを決定したのをはじめ、当地でのNHK交響楽団（日本政府派遣）公演に協力するなど、各種協力をも行なった。

なお、79年度会員純増加数は33件で、1980年3月31日現在340件となった。

本所の1979年度事業概要は、次の通りである。

(1) 10周年記念行事

本所は、1979年12月18日（火）ゴー・チヨク・トン通産大臣、菊地大使、永野日本商工会議所会頭のご来臨を得て本所創立10周年記念式典、記念講演会、祝賀パーティを開催した。

- ① 記念式典には、上記来賓のほか、ニヤン・トウ・ドウEDB長官、ウイ・チヨウ・ヤウ・シンガポール商工会議所連合会会長、リム・ケー・ミン中華総商会会長ら、当地政府、経済界の指導者、本所会員ら約320名が出席、大塚理事（千代田シンガポール）の司会により、午後2時から3時15分の1時間余に亘って開催された。

引続きゴースト通産大臣から、日本企業の対シンガポール投資、日星貿易を中心に、今後ともシンガポール経済高度化に果たす日本の役割の重要性を指摘するとともに本所発展を祈念する旨の祝辞を頂いた。とくに、今後のシンガポール産業高度化の中核となる11業種が祝辞の中で発表された。

このあと、菊地大使、永野日本商工会議所会頭より、本所が経済分野のみならず、文化面さらに人的交流の面でも日星両国の緊密化に貢献しており、本所の役割が一段と重要になつてゐる旨の祝辞を頂いた。

来賓祝辞に引続き、創立以来、本所発展にご尽力された桜井清彦氏、中山一三氏に対して、感謝状と記念品が島崎会頭より贈呈された。

さらに、シンガポール教育省日本語センターには、日本語教育のためのテレビ、VTRのほか、本棚、書籍の目録贈呈を教育省のチャン局長に贈呈するとともに、シンガポール日本人学校の大塚校長には校旗の目録を贈呈した。

② 以上のような記念式典のあと、記念講演会に移り、シンガポール大学経済学部リム教授より“Towards An Association Of Pacific Basin Nations An Exploratory View”、原・日本商工会議所特別顧問（東銀顧問）より“Japan And Asean”と題する講演が行われた。

③ 記念行事の第3部として、午後6時30分よりカクテル・パーティーが行われた。とくに、永野日商会頭より、シンガポールをはじめ、アジアと日本との連帯を強化するため、日本商工会議所並びに当シンガポール日本商工会議所の関係者が一段と努力を払うよう望む旨ごあいさつがあつた。

(2) 対内的事業

① 会合活動

1979年の会合活動は、まず79年度総会を開催し、78年度事業並びに会計報告の承認を得るとともに、会員資格、理事定数、会頭任期に関する定款の一部変更、グレードC、D会員の会費改定を決定した。さらに、選挙による理事20名、推薦理事5名を選任したあと、

正副会頭を選任した。

理事会は、第117回から第128回まで計12回の定例理事会のほか、1979年度NWCに関して、臨時理事会を1回開催した。さらに、一部関係理事により、本所創立10周年記念行事に関する会合も1回開催された。

部会活動では、単独の部会・分科会開催が28回、共催が1回の計29回開催し、情報提供、意見交換に努めた。

委員会活動は、経営研究委員会16回、広報委員会14回を開催したのをはじめ、10周年記念事業の一環である「Top Managementのための Orientation」（仮称）の編集について、前記二委員幹部の打合せも必要に応じて開催された。

その他の会合については、選挙管理委員会2回、日本報道関係者との懇談会1回を開催した。

② 出版物の発行

本所機関誌「月報」を広報委員会で編集し、計12回発行した。とくに1979年11月号は「創立10周年記念特集号」として、ゴードン通産大臣、永野日商会頭の祝辞のほか、日星関係、本所創立前後の動向等を収録した。一方、日本シンガポール協会との共同で、各種シンガポール法律関係を翻訳出版するとともに、シンガポール大使館編集によるシンガポール経済事情を発行した。また、本所の業種別会員名簿も全会員に配布した。

さらに、創立10周年を記念して、新規来星日本人を対象に経営ガイドブックを発行すべく、編集作業を続けた。

③ 要人、ミッション受入れ

金子大蔵大臣、佐々木通産大臣、当地12月17日に開催された第2回ASEAN／日本経済会議に出席の永野日商会頭ら日本側代表団ほか、各機関派遣ミッション17件を迎えて、歓迎レセプション、懇談会、工場見学、当地政府・民間機関との懇談会幹旋を行なった。

(3) 対外的事業

① 現地政府民間機関との交流

N W C (国家賃金審議会) から本所に 1 9 7 9 年 N W C ガイドラインに関する意見照会があつたのに応え、アンケート調査による会員各位の意見をもとに審議を重ねて N W C に本所意見を具申するとともに、N W C 会議に本所会員 5 名を派遣した。1 9 8 0 年 5 月には N W C の要請で本所会員 1 名を N W C メンバーに派遣した。

② 一方、現地関係機関の本所理事派遣要請に対して、 Vocational And Industrial Training Board, Singapore Manufacturers Association, Singapore International Chamber Of Commerce に理事各 1 名を派遣するとともに、Institute Of Southeast Asian Studies にも引続き理事 1 名を派遣した。さらに、National Productivity Board 主催のセミナーにも理事 1 名をパネルディスカッションメンバーとして派遣した。

③ 各種協力

日本政府派遣の N H K 交響楽団シンガポール公演に際し、シンガポール国立劇場側から入場券購入、プログラムへの広告の依頼があり、入場券 1 1 0 枚 (@ 1 0 0 S ドル) の購入、広告掲載等の協力を行なつた。

さらに、V I T B から Apprentice Of The Year Competition For 1980 の技能最優秀者 1 名の日本派遣協力依頼にも応じ、1 9 8 0 年 8 月本所負担 (但し、航空券はシンガポール負担) で派遣することと決定した。

4. 理事会

○第 1 1 7 回

日 時 1 9 7 9 年 4 月 1 7 日 (火) 午後 1 2 時 3 0 分

場 所 シンガポール日本商工会議所

議題 題 1. 前回議事録承認

2. 報告事項

(1) 部会、委員会開催

(2) The Vocational And Industrial Training Board への水戸理事派遣

(3)N W C 勸告に関する本所意見具申。

(4)その他

3. 審議事項

(1)N W C 会議への本所代表派遣。

(2)総会日の決定。

(3)定款 57 条、60 条の一部改正。

(4)選挙管理委員会の設置。

(5)金子大蔵大臣一行パーティ開催

(6)産業災害への義捐金応募

(7)星洲日報、南洋商報への天皇誕生日広告掲載

(8) 広報委員会委員帰国記念品

(9)10 周年記念行事

(10) その他

4. 会計報告

5. 入会・退会申込み

6. その他

○第 118 回

日 時 1979 年 5 月 8 日 (火) 午後 12 時 30 分

場 所 シンガポール日本商工会議所

議 題 1. 前回議事承認

2. 報告事項

(1) 委員会開催報告

(2) 金子大蔵大臣御一行歓迎会開催報告

(3) N W C Meeting の結果報告

(4) その他

3. 審議事項

(1) 78 年度事業報告 (案)

(2) 79 年度予算

(3) 理事定員数問題

(4) 産業災害への義捐金

(5) その他

4. 会計報告

5. 入会申込み

6. その他

○第 1 1 9 回

日 時 1 9 7 9 年 6 月 5 日 (火) 午後 1 2 時 3 0 分

場 所 シンガポール日本商工会議所

議 題 1. 日本シンガポール職業訓練センター派遣専門家紹介

2. 前回議事録承認

3. 報告事項

(1) 部会、委員会開催報告結果

(2) 金子大蔵大臣からの礼状

(3) N W C からの礼状

(4) 理事選挙結果

(5) 定款変更手続中間報告

(6) 教養講座開催企画

(7) その他

4. 審議事項

(1) 総会次第

(2) 7 8 年度事業報告案

(3) 7 9 年度予算案

(4) 会費の一部値上げ及び一部会員格付け見直し

(5) 1 0 周年記念事業

(6) 会員企業雇用問題

(7) その他

5. 会計報告

6. 入会、Up-Grade、退会申込み

7. その他

○第120回

日 時 1979年7月9日(月) 午後12時30分

場 所 シンガポール日本商工会議所

議 題 1. 会頭あいさつ

2. 総会議事録承認

3. 各理事担当、会計監事、オブザーバー選任並びに各機関
への派遣。

4. 前回議事録承認

5. 報告事項

(1) 委員会開催報告

(2) Malaysia Investment Seminar In Singapore 協力礼状

(3) その他

6. 審議事項

(1) 理事補充選挙

(2) 寄付依頼

(3) 昭和54年度経済協力貢献者表彰

(4) 日本人学校協同組合理事選出に関する本所への依頼

(5) NWC勧告に関する本所方針

(6) その他

7. 会計報告

8. 入会・退会、グレード変更

9. その他

○第121回

日 時 1979年8月7日(火) 午後12時30分

場所 所 シンガポール日本商工会議所

議 題 1. 前回議事録承認

2. 報告事項

(1) 部会、委員会開催報告

(2) Science Council Of Singapore への寄付 (第1、2、3工業部会、建設部会)

(3) 岡崎、北九州商工会議所ミッション来星

(4) その他

3. 審議事項

(1) 昭和54年度経済協力貢献者表彰推薦者

(2) National Productivity Board 主催 “Industrial Relations Seminar For Foreign Manager” へのパネルディスカッション参加者推薦

(3) N H K 交響楽団シンガポール演協力

(4) N W C ガイドライン

(5) その他

4. 会計報告

5. 入会申込み

6. その他

○第122回

日 時 1979年9月4日(火) 午後12時30分

場所 所 シンガポール日本商工会議所

議 題 1. 前回議事録承認

2. 報告事項

(1) 部会、委員会開催報告

(2) 経済協力貢献者表彰推薦の件

(3) National Productivity Board 主催の Industrial Relations Seminar パネルディスカッション参加者決定

(4) N H K 交響学団 Tickets 販売結果

(5) Science Centre Acknowledge Plaque

(6) その他

3. 審議事項

(1) 10周年記念行事並びに日本側代表団 (ASEAN-CCI 会議) 歓迎パーティ

- (2) N W C ガイドラインに関する本所意見
- (3) Pricewater House 主催租税問題懇談会参加要請
- (4) Aiesec Singapore Symposium 1979 スピーカー推薦依頼
- (5) 会員格付け
- (6) その他
- 4. 会計報告
- 5. 入会申込み
- 6. その他

○第123回

- 日 時 1979年10月9日(火) 午後12時30分
- 場 所 シンガポール日本商工会議所
- 議 題 1. 前回議事録承認
2. 報告事項
- (1) 部会、委員会開催報告
 - (2) 北九州商工会議所視察団受入
 - (3) 昭和54年度福岡県東南アジア商談会セミナー講師派遣依頼
 - (4) その他
3. 審議事項
- (1) 10周年記念行事
 - (2) Alumni Of The Southeast Asian Youth Ship Participantsからの寄付依頼
 - (3) 本所事務局職員昇給
 - (4) その他
4. 会計報告
5. 入、退会
6. その他

○第 1 2 4 回

日 時 1 9 7 9 年 1 1 月 6 日 (火) 午後 1 2 時 3 0 分

場 所 シンガポール日本商工会議所

議 題 1. 前回議事録承認

2. 報告事項

- (1) 部会、委員会開催報告
- (2) S D F Council への日系企業代表者参加の件
- (3) ミッション受入
- (4) The University Of Western Australia 経営学部からの調査協力依頼
- (5) Singapore Science Centre への寄付金
- (6) その他

3. 審議事項

- (1) 1 0 周年記念行事
- (2) N W C ガイドラインに関する本所意見
- (3) New Nation (1 0 月 1 5 日) 掲載の日経連職員の発言
- (4) Students Care Service からの Charity Donation Draw 賞品及び会員寄付依頼
- (5) その他

4. 会計報告

5. 退会

6. その他

○第 1 2 5 回

日 時 1 9 7 9 年 1 2 月 4 日 (火) 午後 1 2 時 3 0 分

場所 所 シンガポール日本商工会議所

議 題 1. 前回議事録承認

2. 報告事項

- (1) 委員会開催報告
- (2) ミッション受入報告

- (3) Singapore Employers Federation への理事派遣
- (4) 第八回ジャパン・ビジネス・セミナーに対する協力依頼
- (5) Japan Bicycle Show への Complaint
- (6) その他
- 3. 審議事項
 - (1) 10周年記念事業
 - (2) 会員格付け見直し
 - (3) その他
- 4. 会計報告
- 5. 入、退会及び Grade Up
- 6. その他

○第126回

日 時 1980年1月10日(木) 午後12時30分

場 所 シンガポール日本商工会議所

議 題 1. 前回議事録承認

2. 報告事項

- (1) 部会、委員会開催報告
- (2) 第2回日本・ASEAN 経済会議協力礼状
- (3) 来星ミッション予定
- (4) 自転車産業振興協会からの Complaint 回答
- (5) 佐々木通産大臣歓迎パーティ(昼食会)開催
- (6) 日本製紙輸出価格に関する Complaint

3. 審議事項

- (1) 会員格付変更
- (2) シンガポール国際商業会議所コミティ・メンバーへの派遣
- (3) VITB からの "Apprentice Of The Year Competition" への協力
- (4) その他

4. 会計報告

5. 入、退会、Up-Grade

6. その他

○第 1 2 7 回

日 時 1 9 8 0 年 2 月 1 2 日 (火) 午後 1 2 時 3 0 分

場 所 シンガポール日本商工会議所

議 題 1. 前回議事録承認

2. 報告事項

- (1) 部会、委員会開催報告
- (2) ミッション受入と来星予定
- (3) 佐々木通産大臣、宮本通産省産業政策局長より礼状
- (4) Complaint 回答入手
- (5) SEF 理事会メンバーへの本所理事派遣取消し
- (6) シンガポール国際商業会議所から日系企業会員勧誘
- (7) その他

3. 審議事項

- (1) 会員格付見直し
- (2) 慰霊祭
- (3) Lions Convention Organising Committee からの本所主催パーティー開催依頼
- (4) School Advisory Of Sang Nila Utama Secondary School からの寄付金依頼
- (5) 新事務局長推薦決定
- (6) 本所借入金要否
- (7) その他

4. 会計報告

5. 入、退会

6. その他

○第 1 2 8 回

日 時 1 9 8 0 年 3 月 4 日 (火) 午後 1 2 時 3 0 分

場 所 シンガポール日本商工会議所

議 題 1. 前回議事録承認

2. 報告事項

- (1) 部会、委員会開催報告
- (2) N W C メンバー選考会議結果
- (3) シンガポール大学工学部拡充協力調査チーム来星
- (4) ジャパン・マシナリーショウ神宗川、80開催
- (5) その他

3. 審議事項

- (1) 会員格付見直し
- (2) V I T B の技能優秀者への日本派遣
- (3) 研修生ボンド制
- (4) 新大使歓迎会（4月上旬、日本人会と共催）
- (5) その他

4. 会計報告

5. 入、退会報告

6. その他

◎臨時理事会

日 時 1979年4月9日（月） 午後12時30分
 場 所 シンガポール日本商工会議所
 議 題 「1979年NWC勧告に関する意見」

5. 部 会

◎第一工業部会

○5月例会（第2、第3工業部会と合同）

日 時 1979年5月24日（木） 午後12時30分
 場 所 三越ガーデン会議室
 議 題 1. “Alternation Scheme For Leasing Industrial Lands” J.T.C.より
 説明
 2. 質疑応答
 3. 部会員のみによる意見交換

○8月例会

日 時 1979年8月3日（金） 午後12時30分
 場 所 シンガポール日本商工会議所

- 議 題 1. 理事会報告
2. 正副部長改選
3. N W C ガイドライン
4. 今後の部会運営
5. その他

○1月例会

- 日 時 1980年1月21日(月) 午後12時30分
場 所 シンガポール日本商工会議所
議 題 11月実施のアンケート調査について

○3月例会

- 日 時 1980年3月25日(火) 午後7時
場 所 ア波罗・ホテル、ビーナス・ルーム
ゲスト Mr. Ong Wee Hock
Divisional Director (Manpower), Economic Development Board
“最近のシンガポール労働力情勢”

◎第二工業部会

○5月例会(第一、第三工業部会と合同)

- 日 時 1979年5月4日(木) 午後12時30分
場 所 三越ガーデン会議室
議 題 1. “Alternative Scheme For Leasing Industrial Lands” J. T. C より説明
2. 質疑応答
3. 部会員のみによる意見交換

○7月例会

- 日 時 1979年7月30日(月) 午後12時30分
場 所 シンガポール日本商工会議所
議 題 1. 理事会報告
2. 正副部長改選
3. N W C ガイドライン
4. 今後の部会運営
5. その他

○10月例会

日 時 1979年10月30日(火) 午後7時
場 所 Hyatt Hotel, Emperor Meiji Room
議 題 1. NWC勧告の実施状況について意見交換
2. その他

○2月例会

日 時 1980年2月4日(月) 午後7時
場 所 Hyatt Hotel, Henry Keppel Room
議 題 1. 理事会報告
2. 「日本シンガポール共同職業訓練センター現状と見直し」 講師 炭山理事長
3. その他

◎第三工業部会

○5月例会(第一、第二工業部会と合同)

日 時 1979年5月24日(木) 午後12時30分
場 所 三越ガーデン会議室
議 題 1. "Alternation Scheme For Leasing Industrial Lands" J.T.C. より
説明
2. 質疑応答
3. 部会員のみによる意見交換

○7月例会

日 時 1979年7月26日(木) 午後12時30分
場 所 シンガポール日本商工会議所
議 題 1. 理事会報告
2. 正副部会長の改選
3. NWCガイドライン
4. 今後の運営方針
5. その他

○9月例会

日 時 1979年9月27日(木) 午後12時30分

場 所 シンガポール日本商工会議所
議 題 「NWC 勧告実施状況と最新給与体系に関するアンケート調査」集計結果について一般討議

○1 月例会

日 時 1980年1月24日(木) 午後12時30分
場 所 シンガポール日本商工会議所
議 題 1. 理事会報告
2. 「社内行事及び連休に関するアンケート調査」結果報告

◎建設部会

○8 月例会

日 時 1979年8月28日(火) 午後12時30分
場 所 シンガポール日本商工会議所
議 題 1. 理事会報告
2. 正副部会長改選
3. NWC ガイドライン
4. Top Of Trade 寄付
5. 今後の運営方針
6. その他

○12 月例会

日 時 1979年12月10日(月) 午後6時30分
場 所 Lady Hill Hotel, Mauve Room
議 題 1. シンガポール建築家協会による「建築工事契約條款改訂(案)」についての説明と質疑

説明者:

Mr. Albert H. K. Hong (Architect)
Member Of Practice Committee Of
Singapore Institute Of Architects.

◎貿易部会

○8月例会

日 時 1979年8月16日(木) 午後12時30分
場 所 シンガポール日本商工会議所
議 題 1. 理事会報告
2. 正副部会長改選
3. NWCガイドライン
4. 今後の部会運営
5. その他

○2月例会

日 時 1980年2月20日(水) 午後7時
場 所 King's Hotel, Duke Room
テ ー マ 在星日本報道関係者との懇談会

◎繊維分科会

○8月例会

日 時 1979年8月13日(月) 午前10時
場 所 シンガポール日本商工会議所
テ ー マ 「当地繊維事情について」(懇談形式)

○2月例会

日 時 1980年2月4日(月) 午後7時
場 所 シヤングリラ・ホテル、シヤンパレス・レストラン
テ ー マ 福井県繊維シンガポール市場調査団主要団員との夕食懇談会

◎金融保険部会

○7月例会

日 時 1979年7月20日(金) 午後12時30分
場 所 東京銀行シンガポール支店会議室
議 題 1. 理事会報告
2. 正副部会長改選
3. NWCガイドライン

◎運輸通信部会

○7月例会

日 時 1979年7月31日(火) 午後12時30分
場 所 シンガポール日本商工会議所
議 題 1. 理事会報告
2. 正副部会長改選
3. NWCガイドライン
4. 今後の部会運営
5. その他

○10月例会

日 時 1979年10月12日(金) 午後2時
場 所 PSA Tower
内 容 1. PSA概況説明(於PSA会議室)
Mr. Chung Kek Choo
Director (Operations), PSA.
2. ケツペル港とコンテナターミナル構内見学
3. Bersak 号(PSA, VIP 専用船)による港内見学
4. PSA Tower 前で解散

○3月例会

日 時 1980年3月11日(火) 午後7時
場 所 King's Hotel, Duke Room
ゲ ス ト コロンボプランエキスパート(テレビ美術)
荒木 幹夫氏

◎流通サービス部会

○7月例会

日 時 1979年7月24日(火) 午後12時30分
場 所 シンガポール日本商工会議所
議 題 1. 理事会報告
2. 正副部会長改選
3. NWCガイドライン
4. 今後の部会運営
5. その他

○ 2 月例会

日 時 1980年2月8日(金) 午後7時

場 所 China Palace Restaurant, Welling Building

内 容 懇親会

○ 3 月例会

日 時 1980年3月25日(火) 午後7時

場 所 オランダ・クラブ (Hollandsche Club)

ゲ ス ト 大林組 大場 若夫氏

「マリナーシテイ、ラッフルズシテイ計画について」(仮題)

◎化学品石油部会

○ 8 月例会

日 時 1979年8月6日(月) 午後12時30分

場 所 シンガポール日本商工会議所

議 題 1. 理事会報告

2. 正副部会長改選

3. 今後の部会運営

4. その他

○ 10 月例会

日 時 1979年10月15日(月) 午後2時

場 所 ア波罗・ホテル、マーキュリ・ルーム

テ ー マ 「ペトケミプロジェクトの進行状況について」

講師 PCS 役員 西脅 順三郎氏

PCS 東京 宇田 竜三氏

住友化学・企画 米倉 弘昌氏

案 内 先 1. 化学品石油部会員

2. 本所全会員

6. 委員会

◎広報委員会

第 1 回	1979 年	4 月 6 日	午後 12 時 30 分	於会議所
第 2 回	1979 年	5 月 18 日 (金)	。。	。。
第 3 回	1979 年	6 月 18 日 (月)	。。	。。
第 4 回	1979 年	6 月 29 日 (金)	。。	。。
第 5 回	1979 年	7 月 18 日 (水)	。。	於日本人会
第 6 回	1979 年	8 月 27 日 (月)	。。	於会議所
第 7 回	1979 年	9 月 25 日 (火)	。。	。。
第 8 回	1979 年	10 月 1 日 (月)	。。	。。
第 9 回	1979 年	11 月 9 日 (金)	。。	。。
第 10 回	1979 年	12 月 3 日 (月)	。。	。。
第 11 回	1980 年	1 月 14 日 (月)	。。	。。
第 12 回	1980 年	1 月 22 日 (火)	午後 7 時	於 Kaiho
第 13 回	1980 年	2 月 14 日 (木)	午後 12 時 30 分	於会議所
第 14 回	1980 年	3 月 21 日 (金)	。。	。。

◎経営研究委員会

第 1 回	1979 年	4 月 5 日 (木)	午後 12 時 30 分	於会議所
第 2 回	1979 年	5 月 17 日 (木)	。。	。。
第 3 回	1979 年	6 月 21 日 (木)	。。	。。
第 4 回	1979 年	7 月 5 日 (木)	。。	。。
第 5 回	1979 年	7 月 26 日 (木)	。。	。。
第 6 回	1979 年	8 月 23 日 (木)	。。	。。
第 7 回	1979 年	9 月 21 日 (金)	。。	。。
第 8 回	1979 年	10 月 11 日 (木)	午後 7 時 30 分	Dutch Club
第 9 回	1979 年	10 月 18 日 (木)	午後 12 時 30 分	於会議所
第 10 回	1979 年	11 月 22 日 (木)	。。	。。
第 11 回	1979 年	12 月 13 日 (木)	午後 3 時	於会議所
第 12 回	1979 年	12 月 13 日 (木)	午後 7 時 30 分	Kaiho

第13回	1980年	1月17日(木)	午後 7時	Century Park Sheraton Hotel
第14回	1980年	1月18日(金)	午後 7時	アボロホテル
第15回	1980年	2月26日(火)	午後12時30分	Hitchi Consumer Products
第16回	1980年	3月20日(木)	午後 3時	於会議所

◎選挙管理委員会

第 1回	1979年	5月21日(月)	午後12時30分	会議所
第 2回	1979年	5月28日(月)	午後12時30分	会議所

そ の 他

◎日本報道関係者との懇談

1979年	6月	7日(木)	午後 7時	レストラン 大和
-------	----	-------	-------	-------------

7. ミッション、要人受入

- (1) 1979年5月4日
金子大蔵大臣一行歓迎会
- (2) 1979年8月13日
岡崎商工会議所一行懇談、工場見学
- (3) 1979年8月17日
長崎商工会議所一行懇談
- (4) 1979年9月17日
北九州商工会議所一行懇談、 Ministry Of National Development
との懇談、工場見学
- (5) 1979年10月22日
昭和54年度福岡県東南アジア商談会セミナー講師派遣(講演: 内
田貿易担当理事)
- (6) 1979年11月1日
沼津青年工業シンガポール工業視察団一行懇談、工場見学
- (7) 1979年11月2日
神戸港東南アジア市場調査団一行、中華総商会との懇談、神戸港
セミナー
- (8) 1979年11月14日
新潟県青年リーダー養成一行、工場見学

(9) 1979年11月16日

ASEAN 地域油圧機器進出基礎調査団（日本油圧工業会）一行懇談

(10) 1979年11月19日

シンガポール・香港金融投資調査団（九州山口経済連合会）一行懇談

(11) 1979年11月20日

東京都教育庁海外派遣団一行との懇談

(12) 1980年1月18日

佐々木通大臣一行歓迎会

(13) 1980年2月4日

シンガポール市場調査団（福井県繊維協会）一行懇談

(14) 1980年2月6日

東南アジア生産セミナー（日本生産性本部）一行懇談

(15) 1980年2月21日

東南アジア産業視察団（東京商工会議所経営専門学院）一行懇談

(16) 1980年3月20日

シンガポール大学工学部拡充協力調査チーム一行との懇談

(17) 1980年3月21日

国際協力事業団投融資業務説明会

1980年度収支予算案

(1980年4月～1981年3月)

項 目	79年度予算	79年度実績	予算比	80年度予算	前年度予算比
収 入 の 部					
1. 会 費	351,560	362,180	10,620	420,720	69,160
2. 入 会 金	4,100	10,700	6,600	6,000	1,900
3. 出版物売上	12,000	11,188	△ 812	12,000	0
4. その他(補助金)	3,600	3,198.09	△ 401.91	2,160	△ 1,440
5. 前期繰越金	1,772.28	1,772.28		△ 10,914.42	△ 12,686.70
収入合計(I)	373,032.28	389,028.37	16,006.09	429,965.58	56,933.30
支 出 の 部					
(本部経費)					
1. Personnel Exp.	115,000	113,406.40	△ 1,593.60	125,000	10,000
2. Office Exp.	55,000	63,780.92	8,780.92	67,000	12,000
3. Meeting Fee	10,200	7,727.60	△ 2,472.40	16,000	5,800
4. Printing/Periodicals	63,500	62,999.43	△ 500.57	65,000	1,500
5. Postage & Communication	6,500	8,673.83	2,193.83	9,000	2,500
6. Consumables	8,000	5,991.35	△ 2,008.65	8,000	0
7. Transport	900	1,583.70	683.70	1,600	700
8. Office Equipment	16,400	2,149.70	△ 14,250.30	13,000	△ 3,400
9. Advertisement	2,200	2,334	134	2,700	500
10. Translation & Publication	14,000	19,665.31	5,665.31	22,000	8,000
11. Sundry Exp.	7,000	8,262.45	1,262.45	9,000	2,000
12. Reception Exp.	6,000	6,284.40	284.40	7,500	1,500
13. Public Relations	2,000	2,659.40	659.40	3,200	1,200
14. Tax	7,000	27,520.20	20,520.20	26,000	19,000
15. Reserve	5,000	0	△ 5,000	5,000	0
小 計(A)	318,700	333,058.69	14,358.69	380,000	61,300
支 出 の 部					
(部会費)					
16. 貿易部会	2,600	1,598.15	△ 1,001.85	3,400	800
17. 第一工業部会	3,500	925	△ 2,575	4,900	1,400
18. 第二工業部会	2,300	1,966.15	△ 333.85	3,000	700
19. 運輸通信部会	1,700	1,015.35	△ 684.65	2,000	300
20. 流通サービス部会	1,800	679.10	△ 1,120.90	1,700	△ 100
21. 金融保険部会	2,200	508.50	△ 1,691.50	3,100	900
22. ゴム分科会	700	0	△ 700	800	100
23. 繊維分科会	1,100	1,816.95	716.95	1,300	200
24. 化学石油部会	2,100	1,280.90	△ 819.10	2,600	500
25. 建設部会	1,900	1,244.05	△ 655.95	2,500	600
26. 第三工業部会	2,400	1,122.10	△ 979.90	3,500	1,100
27. 経営研究委員会	3,000	3,673.65	673.65	4,500	1,500
28. 広報委員会	3,000	2,399.10	△ 600.70	3,300	300
小 計(B)	28,300	18,529	△ 9,771	36,600	8,300
10周年行事費(C)	90,000	48,365.10	△ 41,634.90	25,000	△ 65,000
(A)+(B)+(C) 支出合計(II)	437,000	399,952.79	△ 37,047.21	441,600	4,600
次期繰越(I)-(II)	12,122.53	△ 10,914.42	△ 23,037	△ 11,634.42	52,333.30
		△ 63,967.72			

理事会の動き

第132回1980年7月8日(火) 午後12時30分

太田会頭の新任あいさつ、上田氏(住友銀行)の帰国あいさつがあった。

議 題: 1. 前回議事録承認

異議なく承認された。

2. 審 議 事 項

(1) 各理事担当、顧問、会計監事及びオブザーバーの選任並びに各機関への派遣

別紙の通り決定した。なお、正副部会長改選のため会頭から各部会、委員会を早期に開催するよう要望があつた。

(2) 昭和55年度経済協力貢献者表彰

本件については、正副会頭、総務担当理事で協議のうえ、8月理事会にその結果を提出することになった。

(3) 寄 付 依 頼

① 「青年の船同窓会」への募金

会議所としての寄付は原則として応じない方針であるが、本件は、とくに日本大使館からの支援要請もあり、シンガポール日本商工会議所として会議所予算から5,000Sドルを「青年の船同窓会」の基金に寄付することにした。

(後日、6月13日(日)「青年の船同窓会」発会式に会頭代理として大塚理事が出席、同席上で5,000Sドル・チェックを「青年の船同窓会」会長Mr. Tan Eng Leongに手交した。)

② 星洲日報及び南洋商報からの広告掲載依頼

例年通り掲載することに決定した。

③ Harbard Field Executive Program (HFEP) について

島崎理事よりこれまでの経緯説明があり、募金依頼に対しては、種々困難もあるが、先方からの具体的な依頼を受けた後、各方面での対応をみた上で検討することにした。

(4) Apprentice-Of-The-Year Competition の Interview Panelist の選任

職業訓練局 (V I T B) からの上記の依頼について検討した結果、日時の変更希望を V I T B に伝えとともに、本所からは第一工業部会担当の早船理事(岡本工作機械製作所)が出席することになった。(後日、事務局から V I T B に問い合わせた結果、日時は変更できないことが判明したので 6 月 17 日(木)早船理事にご出席頂いた。また、審査の結果、1980 年の成績最優秀者は Mr. Png Keng Lee, Gordon (23才、Tien Wah Press Pte. Ltd. 勤務、Off Set Printer)と決定。7 月 28 日(月)太田会頭、早船理事から同人に本所からの費用 10 万円と 3000 ドルを V I T B Officer 立合いの下に手交した。)

3. 報 告 事 項

(1) 懇談会、委員会開催報告

次の通り、懇談会、委員会の開催報告があつた。

○ゴー商工大臣との昼食会(6月30日開催)……太田会頭より

○広報委員会(7月3日開催)……事務局より

○バロン教授との懇談会(7月11日開催予定)……事務局より

○小林教授との懇談会……北村オブザーバーより

(2) シンガポール日本人会カップ寄贈礼状

本所がシンガポール日本人会に寄贈したカップに対する礼状が紹介された。

(3) 来星ミッション

下記の通り、来星ミツシヨンの報告があつた。

○防衛庁統合幕僚学校19期生(6月12日)……島崎理事より

○浜松商工会議所「東南アジア経済使節団」(7月29日予定)……事務局より上記使節団の目的、日程、団員等の説明があつた後検討した結果、事務局ベースで受入れることに決定した。

(4) ブリヂストンシンガポール(株)からの依頼

本年8月末をもつて全製品の生産中止を決定したブリヂストンシンガポール(株)から本所会頭宛寄せられた依頼状が紹介された後、その主旨を会員に周知することになった。

(5) そ の 他

事務局より、下記の礼状及びセミナー開催の報告があつた。

○ The University Of Australia からの礼状

○ S N E F からの1980年 N W C Meeting の通知
セミナー :

○ “Multinationals And Asean Development In The 1980 'S” の通知

○ “Asean Fair'80” の開催通知

4. 会 計 報 告

吉永委員より、6月分の会計報告があり、承認された。

5. 退 会 報 告

下記1件の退会が承認された。

○ Singapore Marusei Pte. Ltd.

1980年度正副会頭並びに各担当理事

1980年度正副会頭並びに各担当理事

会	頭 :	太田 晴之氏 (三井物産)
副 会	頭 :	長谷 清美氏 (三菱商事)
副 会	頭 :	水戸 清 氏 (日立造船)
第一工業部会 (正) :	早船 好蔵 氏 (岡本工作機械製作所)	
第一工業部会 (副) :	森島 栄一 氏 (日本鋼管)	
第二工業部会 :	後藤 敏邦 氏 (TOMY (S) PTE. LTD.)	
第三工業部会 (正) :	早野 美知男氏 (YOKOGAWA ELECTRIC (S) PTE. LTD.)	
第三工業部会 (副) :	加藤 尹稔 氏 (三洋電機)	
建設部 会 :	古田 孝行 氏 (熊谷組)	
貿易部 会 :	三宅 源嗣 氏 (丸 紅)	
金融保険部会 :	清水 泗郎 氏 (東京銀行)	
運輸通信部会 :	安田 達夫 氏 (大阪商船三井船舶)	
流通サービス部会 :	田中 益男 氏 (三 越)	
化学品石油部会 :	小山 俊吾 氏 (住友商事)	
総務担当 :	山内 道夫 氏 (第一勧業銀行)	
財務担当 :	平井 喜平 氏 (三井銀行)	
組織担当 :	倉重 正樹 氏 (東京海上火災保険シンガポール)	
渉外担当 :	大塚 泰 氏 (千代田シンガポール)	
企画担当 :	種田 幸一 氏 (日本郵船)	
NWC 担 当 :	黒田 敏彦 氏 (MATSUSHITA ELECTRONICS (S) PTE. LTD.)	
経営研究委員会 :	七戸 真次 氏 (HYMOLD PTE. LTD.)	
広報委員会 (正) :	岡田 貞則 氏 (三菱銀行)	
広報委員会 (副) :	藤井 宏 氏 (伊藤忠商事)	
全 般 :	藤井 宏 氏 (伊藤忠商事)	
	島崎 弘 氏 (新日本製鉄)	
	大山 治郎 氏 (日商岩井)	
	森島 栄一 氏 (日本鋼管)	
	堀田 繁 氏 (日本航空)	

		湯本 佳伸 氏 (住友銀行)
		加藤 尹稔 氏 (三洋電機)
顧 問	:	桜井 清彦 氏
		中山 一三 氏 (NAKAYAMA BUSINESS SERVICE CO.)
内 部 AUDITOR	:	太田 芳昭 氏 (S'PORE NOMURA MERCHANT BANKING LTD.)
		吉村 健治 氏 (三菱重工業)
オブザーバー	:	竹田 一平 氏 (JETRO)
		北村 一雄 氏 (JOEA)
		長島 英雄 氏 (日本大使館)
SMA ADVISER	:	加藤 尹稔 氏 (三洋電機)
VITB BOARD MEMBER	:	水戸 副会頭 (日立造船)
THE BOARD OF TRUSTEES OF THE INSTITUTE OF SOUTHEAST ASEAN STUDIES:		
		清水 泗郎 氏 (東京銀行)

部 会 活 動

第 1 工 業 部 会

日 時： 1980年7月28日(月) 午後7時～

場 所： APOLLO HOTEL, VENUS ROOM (18TH FLOOR)

- 議 題： (1) 理事会報告
(2) 正副部会長の選任
(3) 1980年NWC勧告についての討論
(4) 懇 談(夕食)

第 2 工 業 部 会

日 時： 1980年8月6日(水) 午後12時30分～

場 所： 三越ガーデン (MITSUKOSHI LIMITED)

住所： JAPANESE GARDEN ROAD,
JURONG TOWN.

- 議 題： (1) 正副部会長の選任
(2) 1980年NWC勧告についての討論
(3) 懇 談

第 3 工 業 部 会

日 時： 1980年7月30日(水) 午後6時30分～

場 所： APOLLO HOTEL, JUPITER ROOM (18TH FLOOR)

- 議 題： (1) 正副部会長の選任
(2) NWC勧告実施に関する意見交換
(3) 懇 談

建設部会

日時： 1980年7月30日(水) 午後12時30分～

場所： シンガポール日本商工会議所

- 議題： (1) 理事会報告
(2) 正副部会長改選
(3) 今後の運営方針
(4) 直面する諸問題の討議

流通サービス部会

日時： 1980年7月29日(火) 午後6時30分～

場所： オランダ・クラブ (HOLLANDSCHE CLUB)
ADDRESS: 22, CAMDEN PARK,
TEL. NO.: 663966

- 議題： (1) 1980年度正副部会長の選任
(2) 1980年NWC勧告への対応
(3) 懇談会食

金融保険部会

日時： 1980年8月8日(金) 午後12時30分～

場所： 東京銀行シンガポール支店会議室
HONG LEONG BUILDING, 18階

- 議題： (1) 理事会報告
(2) 正副部会長の改選
(3) その他

7 月 主 な 経 済 記 事

- 4 日 〇 1978年からシンガポールの不動産市場に活気が見られ始めたが、その後も価格の上昇が維持され、中央繁華街の住宅価格は100～150%、カトン、トムソンロードなどの比較的郊外にあるところでも50～100%に上昇した。また、中央商業地区の家賃（事務所等）は約2倍に上昇した。
- 9 日 〇 シンガポールでは最近建築用石の供給不足が慢性化している。関係者の話だと、石の不足は(1)隣国が輸出しない、(2)政府、民間の住宅建設の増加などが原因である。
- 12 日 〇 シンガポールのベニヤ板工場の閉鎖がつづいている。輸出の低調、価格下降、シンガポール、マレーシア、韓国以外の国のダンピングなどが原因であつた。
- 14 日 〇 シンガポール今年上半期における自動車販売台数は去年同期比42%増となつた。統計によると乗用車は今年上半期に47.5%増、商用車27.2%増であつた。特に日本製の車は今年1～5月の間に販売された車のうち85%を占めた。
- 16 日 〇 シンガポールの玩具製造業は輸出不振に陥っている。現地製造の玩具の多くは外資で、製品の殆んど（95%）が外国に輸出された。統計によると去年の玩具輸出総額は9千万\$ドルとなつた。
- 21 日 〇 チャンギ新国際空港は来年半ばの開港が可能の見通しである。開港するとパヤレバ空港に発着している全ての国際線航空機はチャンギ新空港を使用することになる。ラッシュ時には2分間に一機の発着になるものと推定されている。
- 政府公報によると、1980年糖輸出入条例が今年7月1日付で発効となつた。この条例では、糖の輸出入に際しては必ず輸出入統制官にその旨届け出ることを義務づけている。しかし、①重量が1トン未満の場合、②船や飛行機など輸送機関の中に保管されているとき、③直接食用にまわされる糖、④一時保管（輸出用）の糖などに

ついて上述の義務を免除される。

22日0シンガポールはベトナム向けの戦略性物資、石油産品、航空、船舶器材、機械、工事設備及び小麦粉等の輸出を停止した。

23日04月にシンガポールで開かれた第9回ASEAN 経済閣僚会議で、域内特惠関税対象品目を1498品目を追加して、合計4325品目とすることを承認した。

この1498品目は22日から正式に対象品目として認められ、うち293品目は早速22日から関税優遇措置がとられた。

JIJI PRESS より抜粋

廣 報 欄

** CHANGE OF ADDRESS

* OSAKA DENKI DANBO CO., LTD.

F 4 & 5, 1st Floor,
Cantonment House,
Cantonment Road,
Singapore, 0208.

* ENSEL ENGINEERING SERVICE (ASIA) PTE. LTD.

Lot A5713, Pandan Road,
Jurong Town,
Singapore, 2260.

* DAIICHI JITSUGYO CO., LTD.

Rm 601, 6th Floor,
Choon Bee Building,
333, North Bridge Road,
Singapore, 0718.

* OMRON SINGAPORE (PTE) LTD.

1298-A, Siong Hoe Warehouse,
Lorong 1, Toa-Payoh,
Singapore, 1231.

** CHANGE OF COMPANY'S NAME

* HOKUSHIN ELECTRIC WORKS, LTD.

Hokushin Singapore Pte. Ltd.

* SOUTH EAST ASIAN EXPRESS (PTE) LTD.

Hitachi Express Singapore (Pte) Ltd.

** CHANGE OF NAME OF REPRESENTATIVE

* YUASA BATTERY (S) CO., PTE. LTD.

Mr. H. Shiode

* HITACHI EXPRESS SINGAPORE (PTE) LTD.

Mr. A. Sekine

* KAO (SINGAPORE) PTE. LTD.

Mr. T. Takayama

* NICHIMEN CO., LTD.

Mr. A. Furuta

- * CITI BANK N. A.
Mr. K. Egawa
- * MEIJI SEIKA (SINGAPORE) PTE. LTD.
Mr. T. Kono
- * KAWASAKI STEEL CORPORATION.
Mr. M. Monden
- * HITACHI CHEMICAL CO., LTD.
Mr. G. Sato
- ** CHANGE OF TELEPHONE No.
- * THREE BOND CO., LTD.
Tel: 3374456 (3 LINES)
- * HOKUSHIN SINGAPORE PTE. LTD.
Tel: 2734488
- * DAIICHI JITSUGYO CO., LTD.
Tel: 3387171 (2 Lines)
- ** MEMBERS' LIST (1980/81) 訂正のお願い
Page 40, YUASA SHOJI CO., LTD. の
DIVISION を 2. DEPARTMENT STORE から
1. TRADING FIRM に訂正下さい。

資 料 案 内

トップマネジメントのためのオリエンテーション	(会 員)	S\$25
シンガポール共和国関税法再版		S\$20
シンガポール概況1975年度		S\$20
シンガポール共和国特許(実施権)法		S\$ 8
シンガポール共和国製造業管理法(仮訳)		S\$ 8
シンガポール共和国環境公衆衛生法		S\$20
資金援助制度の手引		S\$ 8
中央厚生年金法(仮訳)		S\$15
シンガポール共和国財産税法、財産税(付加税)法		S\$15
シンガポール共和国個人所得税解釈		S\$10
業種別会員名簿		S\$20
大気汚染防止法		S\$ 8
経済拡大奨励法		S\$10
月報(各月号)		S\$ 8
法律第1号(共和国改正会社法—1970年法律第62号)		S\$ 5
法律第2号(共和国所得税法—法律第141号の一部改正)		S\$ 5
法律第3号(共和国労働雇用法—1970年法律号122号を改正する法律)		S\$ 5
法律第4号(共和国改正会社法—1974年改訂法律第185号)		S\$ 5
法律第6号(共和国為替管理法改正)		S\$ 5
法律第7号(共和国会社法改正)		S\$ 5
法律第9号(共和国関税法改正)		S\$ 5
法律第11号(共和国大気汚染法、公衆衛生法、公衆衛生規則の改正法)		S\$ 5
法律第13号(共和国所得税法を改正する法律、中央厚生年金法、告示)		S\$ 5
法律第15号(経済拡大奨励法改正法)		S\$ 5
シンガポール為替管理法(仮訳)		S\$15
邦人進出企業並びに外資主要企業概況一覧表(改訂)		S\$20
シンガポール共和国移住法		S\$15
シンガポール共和国要覧1977		S\$20
シンガポール共和国技術士法		S\$ 5
シンガポール共和国商標法		S\$10
シンガポール共和国憲法		S\$15
シンガポール共和国1979年		S\$20
シンガポール共和国銀行業法		S\$15
関税法(第133編)1979年関税令		S\$15
シンガポール共和国労働雇用法、労働組合法、労働関係法		S\$25
1966年地方政府建築規則		S\$15
シンガポール共和国会社法		S\$60
	但し、非会員	S\$70
シンガポール経済事情(1979年8月)		S\$10
価格規制法		S\$ 5
シンガポール共和国現行租税制度		S\$10

MONTHLY REVIEW

PRINTED BY
GREEN MOUNT PUBLICATION & PRINTING CO.
11A-12A, BLOCK 1, FLATTED FACTORY, KALLANG WAY,
SINGAPORE 13. TELS: 2923831, 2922296
(KALLANG BASIN INDUSTRIAL ESTATE)

JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY SINGAPORE

UNIT 2304-2305 23RD FLOOR, C.P.F. BUILDING NO. 79 ROBINSON ROAD, SINGAPORE 0106 TEL: 2210541, 2210665